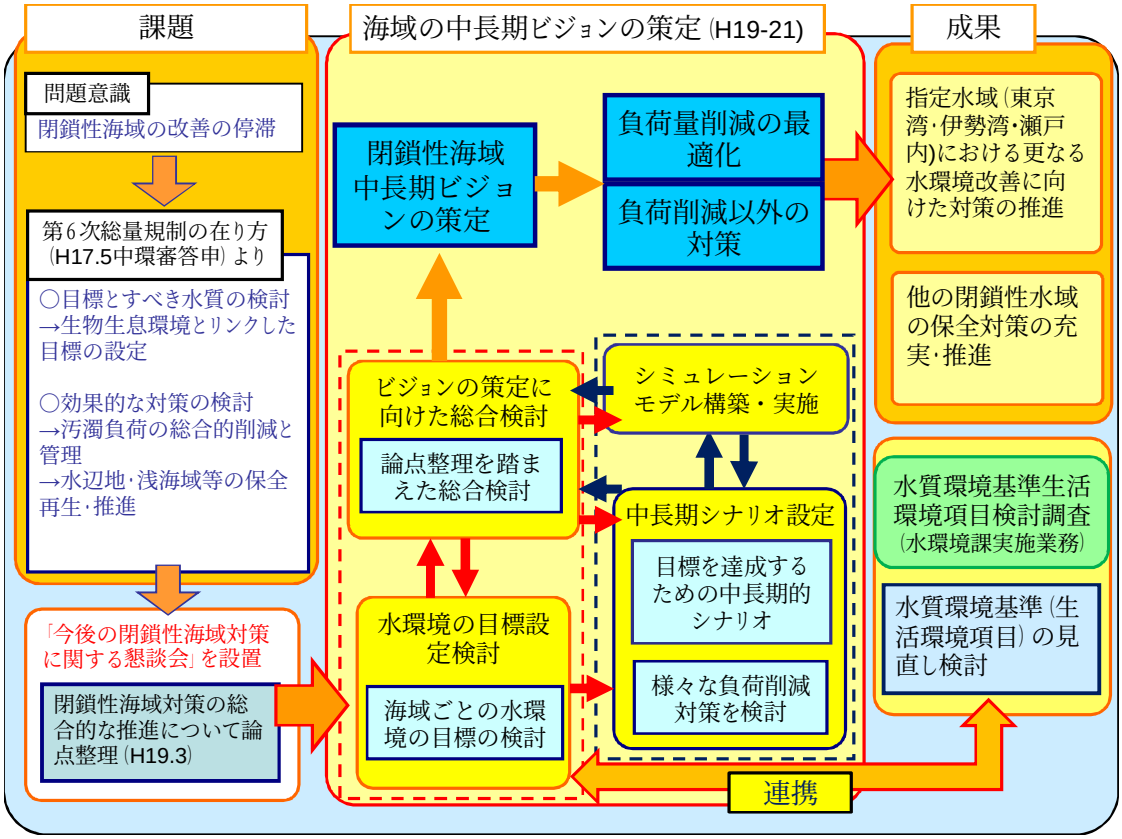
資料 14

閉鎖性海域中長期ビジョンの策定について

（水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室）

1．概要



2．平成 19 年度の主な検討内容

（1）目標設定WGにおける検討

・平成 18 年度の論点整理において**状態指標の第１の候補とされた底層ＤＯと透明度**について、

① 我が国の**水質環境基準や水産用水基準**など、並びに**米国チェサピーク湾の水質基準**での**設定根拠等を整理**した上で、

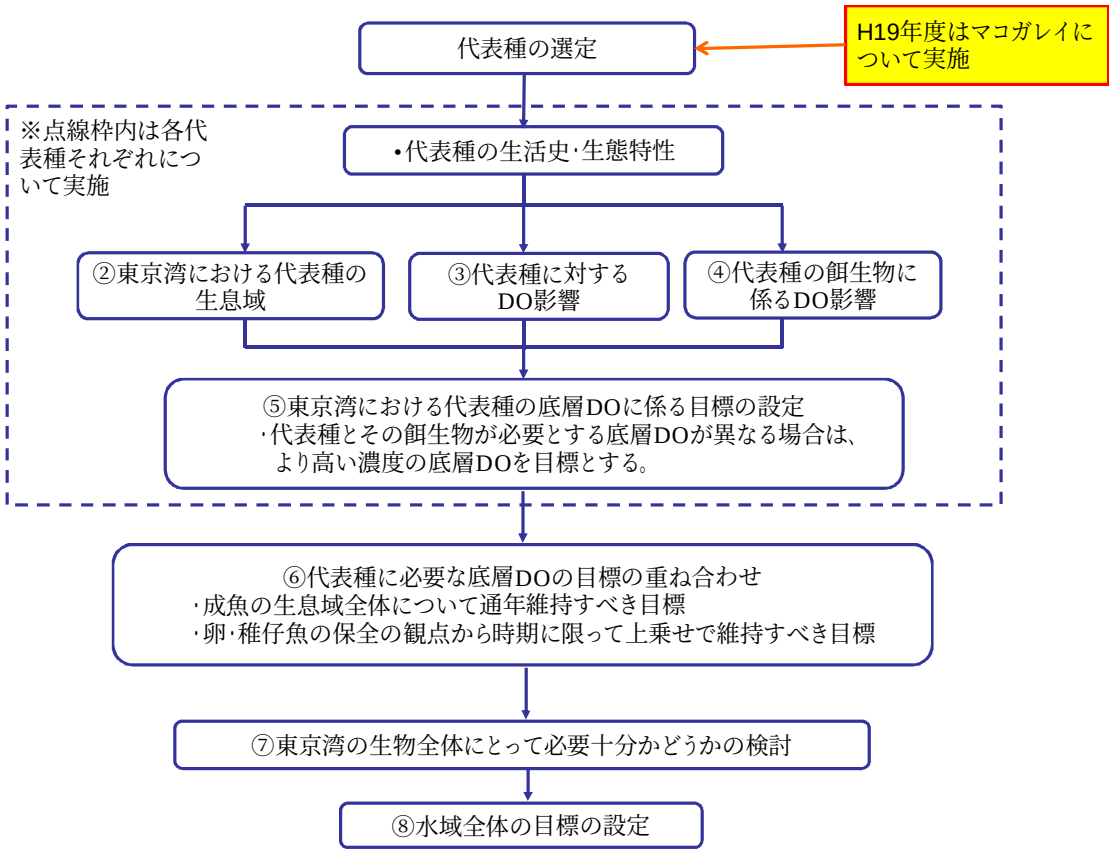
② 具体的な**目標設定を行っていく上での論点を整理**するとともに、**検討方針案**を目標設定WGに提示し議論した。

③ さらに、上記の検討方針案に基づいたケーススタディーとして、「**無生物域の解消に係る底層ＤＯ目標**」、「**東京湾に生息する代表的な水生生物に係る底層ＤＯ目標（マコガレイを対象に試行）**」、「**東京湾に生息する代表的な藻場に係る透明度目標（アマモを対象に試行）**」について作業を行い、より具体的な考え方と論点を整理した。

④ ①から③での検討を踏まえ、**目標設定を行う上での論点を再整理**するとともに、具体的な考え方を詰めていくための**検討方針案を取りまとめた**。

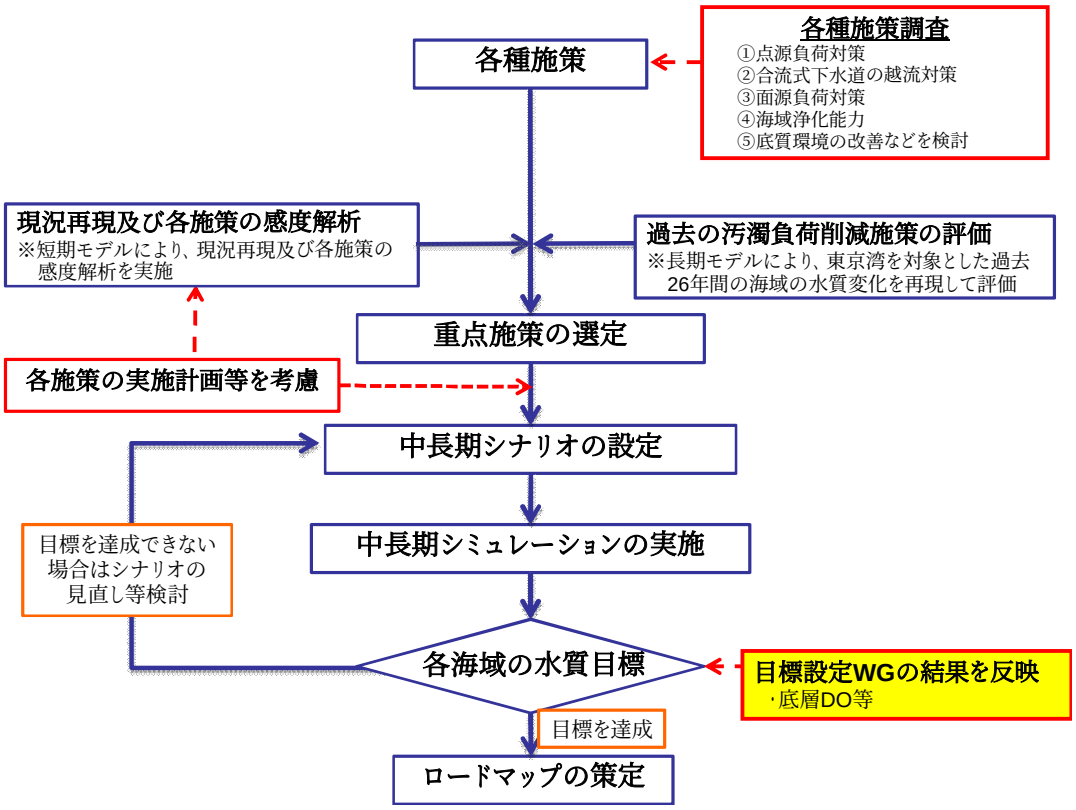
・また、平成 18 年度の論点整理において**底層ＤＯ及び透明度以外に検討すべきとされた指標（可能性指標）**についても、上記④と同様に、**目標設定を行う上での論点**及び**検討方針案を取りまとめた**。

（参考）代表的な水生生物に係る底層 DO 目標設定の検討フロー



（２）対策効果検討ＷＧにおける検討

対策効果検討ＷＧでの検討では、以下のような工程により中長期ビジョンにおけるロードマップを策定することとした。


各種施策
各種施策調査
①点源負荷対策
②合流式下水道の越流対策
③面源負荷対策
④海域浄化能力
⑤底質環境の改善などを検討
現況再現及び各施策の感度解析
※短期モデルにより、現況再現及び各施策の感度解析を実施
過去の汚濁負荷削減施策の評価
※長期モデルにより、東京湾を対象とした過去26年間の海域の水質変化を再現して評価
重点施策の選定
各施策の実施計画等を考慮
中長期シナリオの設定
目標を達成できない場合はシナリオの見直し等検討
中長期シミュレーションの実施
各海域の水質目標
目標設定WGの結果を反映
・底層DO等
目標を達成
ロードマップの策定